

祭は人をひきつける

祭は人々をつなげる

祭は一体感をつくる

川路祇園まつり



みなさん！集まりましょう この祭に色をつけるのはあなた自身です

開催日時：平成30年7月14日（土） 午後5時～8時半頃
（雨天中止 実施の可否は朝6時に煙火でお知らせします）

開催場所：川路5区特設会場（川路バイパス留々女沢川付近）
（地区内巡航などは、区毎に計画されます）

主催者：川路祇園まつり実行委員会

川路まちづくり委員会、（寿・英・旭・甲子）祇園囃子保存会、千登勢獅子舞保存会、
天龍峡龍神の舞保存会、古城御輿（古城子供太鼓）

☆ この事業は、「平成30年度長野県地域発元気づくり支援金」を活用した事業です ☆

川路祇園の豆知識

起源は約260年前

川路の祇園まつりは、4区留々女沢川の脇にある津島神社の祭礼。津島神社の総本社は愛知県津島市にある。その津島様が川路へ祀られたのは約260年前。

江戸時代のこと。水害で悩まされていた下川路村と時俣村（今の竜丘時又）は、川をはさんだ今田村（今の龍江今田）と境界争いが絶えず、江戸評定所にまで申し出て訴訟をしていた。宝暦（ほうれき）8年（1758年）、江戸に出向いた庄屋たちが戻った時に尾張（今の愛知県）から津島神社を勧請（かんじょう）したと『川路水防史』に記されている。一方、『川路村誌』には、宝暦10年（西暦1760年）、8年がかりの争いが決着したことから、当時の藩主に願い出て津島神社を分祀することにしたと記されている。

1758年から数えて260周年となる今年に今回の統一まつりを行うこととした。

津島神社は疫病退散の神を祀る

仏教の生まれたインドでは祇園精舎（ぎおんしょうじゃ）の守護神として、牛の頭をした「牛頭天王（ごすてんのう）」が信仰されていた。津島神社は悪疫を除けてくれる神としてこの「牛頭天王」を祀っていて、水難で苦しむ村民の願いから川路に迎えられた。京都祇園の八坂神社も同じく「牛頭天王」を祀る。

祇園囃子

川路津島神社の祭礼に奉納する祇園囃子が始まったのは宝暦10年と言われる。住民が屋台を曳いて中に乗った演者がお囃子を奏でていた。中平（今の4区）で始まった屋台・囃子はその後（明治22年頃には）各区でも演じられるようになり、昭和初期には、各区の屋台が嶋地区（旧川路村1区であったが今は時又地区）の庚申様から4区津島様まで次々と曳航される宵祭りは賑やかだったという話である。

お囃子は幾つもの曲がある。区によって少しずつ違いがあるが、「旭新五郎」「鳶娘」「宮神楽」「吉野」「群雲」「花間」「正礼」「三好」「若柳」「鷺娘」「七賢人」「大間」「松風」「片囃子」などがあるという。お囃子の道具は、大太鼓、小太鼓、鼓（つづみ）、笛、三味線、鉦（かね）などである。

ながらく7月14日に宵祭り、15日に本祭りを行っていたが、近年になって7月第2土曜日の開催になった。また、また屋台・囃子などの装備が途絶えた区もあり、新たに6区のお神輿、7区の龍神の舞、8区の獅子舞が区民の手で行われてきている。

各区に名をつけて

川路村内を八つの区に分けて呼ぶようになったのは、明治22年の市町村制度実施からである。当時の青年会的組織「若連」が、区毎に源氏名（げんじな）をつけて競い合ったのが今に残る呼称である。いわく、2区「寿（ことぶき）」、3区「英（はなぶさ）」、4区「旭（あさひ）」、5区「甲子（きのえね）」、6区「古城（こじょう）」、7区「相生（あいおい）」、8区「千登勢（ちとせ）」と呼ぶ。祇園まつりで使われるほか、公民館事業での旗印になっている。ちなみに、現在は存在しないが1区は「曙（あけぼの）」と言った。